



# 自分たちのまちのこと、自分たちで考え、自分たちでつくる～たつせがあるまちづくり

長久手市 たつせがある課12年の軌跡

## 「地域共生ステーション」

市の計画案も予定調和なシナリオで進めることもなく、ワークショップに集まった市民が「自分たちの地域にはどのような場が必要なのか？」対話を繰り返し、イメージをふくらませて、つくってきた。オープンから10年、地域にとって、なくてはならない居場所になっている。



長久手中央2号公園

西小校区共生ステーション～普段の風景

誰でも気軽に立ち寄って、お茶しておしゃべりしたり、…思い思いに過ごせる場所

「できること、やりたいこと」を出し合い、一人ひとりが役割をもって活躍できる場所

集いの場

つながり

身近な相談の場

地域の困り事を発見(気づき)、解決に向けて動き出す出発点

集まったみんなで、ワイワイガヤガヤしながら、「自分たちの力」で住みやすいまちをつくっていく場所



リニモテラス公益施設

## 「リニモテラス」

市の総合計画の構想から10年以上を経て生まれた「新たなつながりをデザインする場」。これまでの公共施設のように用途を限定せず、市民が本当に必要とする施設をみんなで悩みながらつくってきた。公園もルールを決めつけず、音楽もマルシェも焚き火もできる。「やりたい」という想いを形にできる場はこれからも変わり続ける。



市が洞小校区共生ステーション～学生&まちづくり協議会

2014年、20代から40代の若手市民と若手高次学術職員「高次学術職員」が、一緒に考えて取り組む、市民参加ワークショップ。  
「お」がくて「で」までがスタート「お」でスタート「お」でスタート。  
この取り組みは、新しい時代の市民参加のしくみや、政治家のまちづくりを推進していく。  
それは、参加メンバー自身が、自分たちが望む長久手市のまちづくりについて考え、提案するための企画を打ち出したこと。  
そして、もともと参加者の意見を尊重し、広げていくことで、10年後、20年後の「人材のつながり」を生み出しています。

まちのこと、自分たちで考える

朝ごはん、昼ごはん、なでラボ。  
朝ごはんは、おはようございます。朝ごはんは、おはようございます。朝ごはんは、おはようございます。  
朝ごはんは、おはようございます。朝ごはんは、おはようございます。朝ごはんは、おはようございます。  
朝ごはんは、おはようございます。朝ごはんは、おはようございます。朝ごはんは、おはようございます。  
朝ごはんは、おはようございます。朝ごはんは、おはようございます。朝ごはんは、おはようございます。

CONTENTS  
01 背景  
02 きっかけ  
03 参加メンバー  
04 活動内容  
05 成果  
06 今後の展望

## 「気づいたら、まちのこと考えてた。」

「なでラボ」の本質は独自の視点を持ち、本気で楽しみながらまちづくりを担っていくこと。特別なことではなく日常的な当たり前のことと捉えて、自分たちのやりたいこと、できることを「地域が必要とすること」につなげていく  
～10年後、20年後を見据えた人材を育むことを目指した取組はきっと今につながっている。